

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
専門学校 水戸自動車大学校	平成11年4月7日	八文字 和宏	〒311-0812 茨城県水戸市浜田2-14-22 (電話) 029-228-1011		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人八文字学園	昭和57年4月1日	八文字 蓉子	〒311-0812 茨城県水戸市浜田2-11-18 (電話) 029-221-8771		
目 的	本校は学校教育法第82条の2の規定により、高度で専門的な工業専門分野を中心とした自動車整備技能の教育を行うことを目的とする。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業専門課程	車体整備学科	3年(昼)	3003単位時間 (又は単位)	平成22年度文部科学 大臣告示第152号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	1056単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1947単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人	23人	19人	2人	21人	
学期制度	■全期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有)無) ■成績評価の基準・方法について 期末試験、実習の成果、履修除状況	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月24日～8月31日 ■冬 季：12月19日～1月6日 ■学 年 末：3月31日		卒業・進級条件	全科目の履修時間が、学則第9条 表1に定める授業時間数の100% ・期末試験に合格しているもの ・卒業試験に合格しているもの	
生徒指導	■クラス担任制(有)無) ■長期欠席者への指導等の対応 面談・家庭訪問		課外活動	■課外活動の種類 校外清掃 ■サークル活動(有)無)	
主な就職先	■主な就職先、業界 自動車業界、自動車ディーラー ■就職率 100% (平成27年度)		主な資格・検定	・自動車整備士(車体・2級) ・有機溶剤作業主任者 ・中古自動車査定士技能検定	
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 8.7% 平成27年4月 1日在学者 23名(平成27年4月入学者を含む) 平成28年3月 31日在学者 21名(平成28年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由 ■中退防止のための取組 面談・家庭訪問				
ホームページ	URL: http://www.mito.ac.jp/				

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ① 社会の要請に応えた自動車整備士を育成するため、業界や企業関係者が参画する教育課程編成委員会の提言を踏まえた科目の編成や授業内容・方法等の改善に取り組む。
- ② 高度化する自動車技術、多様化する自動車社会に対応できる人材を育成するための実践的な教育課程の編成を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 3 月 31 日現在

名 前	所 属
中井 英一	茨城大学 理学部 教授
伊達 延之	茨城ダイハツ販売株式会社 総務部 部長
大島 弘	株式会社 スズキ自販茨城 執行役員 サービス部 部長
神谷 寛之	茨城トヨタ自動車株式会社 総務部人事課主任
小野里 源治	日産プリンス茨城販売株式会社 サービス部 課長
野崎 和紀	茨城トヨペット株式会社 人事部 部長
金野 孝一	株式会社 北関東マツダ 管理部 採用グループ次長
八文字 和宏	水戸自動車大学校 学校長
郡司 秀彦	水戸自動車大学校 教務部長
雨谷 俊宏	水戸自動車大学校 1級自動車整備・車体整備学科長(1・2年)
近馬 克之	水戸自動車大学校 2級自動車整備学科長
大森 秀幸	水戸自動車大学校 2級自動車整備実習学科長
高野 正義	水戸自動車大学校 車体整備学科長(3年)

(開催日時)

第1回 平成27年 11月19日 14:00 ~ 16:00 第2回 平成28年 3月24日 14:00 ~ 16:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

- ① 業務上必要な基礎的知識や現業職場における業務関連の基礎的技術の履修、職場管理能力の修得及び業務改善能力や企画力を養うための、関連知識の履修を中心に実施するものとする。
- ② 自動車の技術革新に対応するために、自動車の新機構・新装置について知識および点検整備方法等技能の向上をはかる。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
特殊機構 1	自動車業界での実践教育を通して学生の就職に対する意識を高めることと自動車整備の技術の向上を目的として、溶接技術の安全作業を学ぶ。	茨城労働基準協会連合会
機械工作作業	自動車業界での実践教育を通して学生の就職に対する意識を高めることと自動車整備の技術の向上を目的として、ガス溶接技術の安全作業を学ぶ。	茨城労働基準協会連合会

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ① 教員研修を、それぞれの経験年数や職能に応じて教職員の資質・能力の向上が図れるように研修体系を構築する。
- ② 専門教科等の研修を実施し、教職員の専門的知識・技能の修得の推進を図る。また、業界・企業等と連携することにより、最新の技術や業界の動向などを把握の上、必要な研修を実施する。
- ③ 教員研修の成果が日常の教育活動に活用されるよう、研修内容の事後点検に努める。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 3 月 31 日現在

名 前	所 属
高田 典之	(卒業生)
吉成 庄司	(卒業生)
吉原 栄治	(保護者)
渡邊 尚樹	(保護者)
雨谷 俊一	(地域住民)
本多 有佳梨	(地域住民)
伊達 延之	茨城ダイハツ販売株式会社 総務部 部長
大島 弘	株式会社 スズキ自販茨城 執行役員 サービス部 部長
神谷 寛之	茨城トヨタ自動車株式会社 総務部人事課主任
小野里 源治	日産プリンス茨城販売株式会社 サービス部 課長
野崎 和紀	茨城トヨペット株式会社 人事部 部長
金野 孝一	株式会社 北関東マツダ 管理部 採用グループ次長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: www.mito.ac.jp/disclosure/index.html

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: www.mito.ac.jp/disclosure/index.html

授業科目等の概要

(工業専門課程 車体整備学科) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			基礎自動車工学	基礎自動車工学	1 前	15		○		
○			ガソリン 1	2 級ガソリン (総論、エンジン本体Ⅱ)、3 級ガソリン (総論、エンジン本体Ⅰ)	1 前	25		○		
○			ガソリン 2	2 級ガソリン (潤滑装置、冷却装置) 3 級ガソリン	1 後	7		○		
○			ガソリン 3	2 級ガソリン (電子制御装置) 3 級ガソリン	2 前	14		○		
○			ガソリン 4	2 級ガソリン (燃料装置、吸排気装置)	2 前	13		○		
○			ジーゼル 1	2 級ジーゼル (総論、エンジン本体、潤滑装置) 3 級ジーゼル (エンジン本体、潤滑装置)	1 前	7		○		
○			ジーゼル 2	3 級ジーゼル (燃料装置)	1 前	23		○		
○			ジーゼル 3	2 級ジーゼル (燃料装置) 3 級ジーゼル (燃料装置)	1 前	13		○		
○			ジーゼル 4	2 級ジーゼル (燃料装置、吸排気装置) 3 級ジーゼル (燃料装置)	2 後	22		○		
○			シャシ 1	2 級シャシ (アール及びサスペンション) 3 級シャシ (総論、アール及びサスペンション)	1 前	16		○		
○			シャシ 2	2 級シャシ (ホイール及びタイヤ) 3 級シャシ (動力伝達装置Ⅰ、ホイール及びタイヤ、ホイール・アライメント)	1 前	30		○		
○			シャシ 3	3 級シャシ (ステアリング装置Ⅰ、ブレーキ装置Ⅰ)	1 後	11		○		
○			シャシ 4	2 級シャシ(ホイール・アライメントⅡ、ブレーキ装置Ⅱ) 3 級シャシ(フレーム及びボデー)	2 前	19		○		
○			シャシ 5	2 級シャシ(動力伝達装置Ⅱ、ステアリング装置Ⅱ)	2 後	23		○		
○			力数 1	基礎自動車工学・基礎知識、基礎的な原理法則) 基礎自動車工学(基礎的な原理法則、自動車の諸元)	1 前	23		○		
○			力数 2	基礎自動車工学・基礎的な原理法則、2 級シャシ	1 後	8		○		
○			力数 3	基礎自動車工学(自動車の諸元)	2 前	13		○		
○			力数 4	基礎自動車工学(自動車の諸元)	2 後	13		○		

○		電子工学1	基礎自動車工学（基礎的な原理・原則（電気と磁気）） 2級ガソリン（電気装置（Ⅰ、Ⅱ、半導体、バッテリー）） 3級ガソリン（電気装置（Ⅰ、Ⅱ、半導体、バッテリー））	1前	16		○		
○		電子工学2	2級ガソリン（電気装置（Ⅰ、半導体、Ⅲ、始動装置、Ⅲ充電装置）） 2級ジーゼル（（Ⅵ、充電装置）） 3級ガソリン（Ⅲ始動装置、Ⅵ充電装置）	1前	25		○		
○		電子工学3	2級ガソリン（電気装置（Ⅴ、点火装置）） 2級ジーゼル（電気装置（Ⅴ、予熱装置）） 3級ガソリン（（Ⅴ、点火装置）） 3級ジーゼル（電気装置（Ⅴ、予熱装置））	1後	9		○		
○		電子工学4	2級シャシ（電気装置（Ⅰ、計器、Ⅲ、空調装置）） 3級シャシ（電気装置（Ⅲ、灯火装置、Ⅵ、計器、暖冷房装置））	2前	13		○		
○		電子工学5	2級シャシ（電気装置（Ⅱ、警報装置、Ⅵ、電気装置の配線）） 3級シャシ（電気装置（Ⅴ、ホーン、ウインドシールド・ワイパ、及びウインドシールド・ウォッシャ電気装置の配線））	2前	13		○		
○		材料	基礎自動車工学（自動車の材料）	1後	8		○		
○		燃料・潤滑	2級ガソリン（燃料及び潤滑剤） 2級ジーゼル（燃料及び潤滑剤） 2級シャシ（燃料及び潤滑剤）	1前	8		○		
○		図面	製図	2前	11		○		
○		自動車工学演習	自動車工学に関する総合演習	2後	20		○		
○		ガソリン5	2級ガソリン（吸排気装置・整備、エンジンの点検・整備） 3級ガソリン（エンジン本体・整備）	1後	17		○		
○		ガソリン6	2級ガソリン（潤滑装置・整備、冷却装置・整備） 3級ガソリン	1後	10		○		
○		ジーゼル5	2級ジーゼル（燃料装置、インジェクションポンプテスト整備） 3級ジーゼル（燃料装置、インジェクションバルブテスト整備）	2前	20		○		
○		シャシ6	アクスル及びサスペンション・整備、動力伝達装置Ⅰ・整備、ホイール及びタイヤ・整備、アライメント整備	1前	22		○		
○		シャシ7	2・3級シャシ（ステアリングⅠ・整備、ブレーキ装置Ⅰ・整備）	1後	10		○		
○		シャシ8	2・3級シャシ（ブレーキ装置Ⅱ・整備、フレーム及びボデー・整備）	2前	11		○		
○		シャシ9	2・3級シャシ（ステアリングⅡ・整備、動力伝達装置Ⅱ・整備、シャシの点検・整備）	2後	19		○		

○		電子工学6	2級ガソリン（電気装置・整備（Ⅱ、バッテリー、Ⅲ、始動装置、Ⅵ、充電装置）） 3級ガソリン（電気装置・整備（Ⅱ、バッテリー、Ⅲ、始動装置、Ⅵ、充電装置、Ⅴ、点火装置）） 3級ジーゼル（電気装置・整備（Ⅴ、予熱装置）） 2級ジャン（電気装置（Ⅱ、警報装置、Ⅲ、空調和装置）） 3級ジャンシ（電気装置（Ⅲ、灯火装置、Ⅵ、計器、Ⅴ、ホーン・ワイパ、Ⅶ冷房装置））	2後	19		○		
○		故障探求	2級ガソリン（故障原因探求） 2級ジーゼル（故障原因探求）、2級ジャン（故障原因探求）	2後	15		○		
○		自動車整備演習	自動車整備に関する総合演習	2後	50		○		
○		整備機器	基礎自動車整備作業（整備基礎知識、基礎整備作業のⅠ）	1前	13		○		
○		測定	基礎自動車整備作業（基礎整備作業のⅡ～Ⅶ）	1前	12		○		
○		検査機器	基礎自動車整備作業（基礎整備作業のⅧ昇降作業～Ⅹ機械工具）	1後	12		○		
○		検査	2級ジャン（保安基準適合性確保の点検）	2後	24		○		
○		法令Ⅰ	法令（道路運送車両法と保安基準、自動車点検基準）	1後	11		○		
○		法令Ⅱ	法令（道路運送車両法と保安基準、自動車点検基準）	2後	15		○		
○		（情報技術1）	コンピュータ実習	1前	20		○		
○		（情報技術2）	コンピュータ実習	2前	20		○		
○		（文書技法1）	一般常識	1後	20		○		
○		（倫理社会1）	一般教養	1前	5		○		
○		（倫理社会2）	一般教養	2後	5		○		
○		機械工作作業	自動車整備士に必要な工具、機械類の種類、用途、使用方法を学ぶ。仕上げ作業及び工作作業を行うことにより安全作業の重要性について学ぶ。溶接の安全作業を学ぶ。	1前	27.2				○
○		計測作業	RD28エンジンの分解組立を行いながら各種の計測作業を行うことにより、各測定器具の取り扱い及び使用方法を学ぶ。また、測定の重要性についても学ぶ。	2前	47.4				○
○		エンジン本体	ガソリンエンジン分解組立を行い、最後にエンジンを始動させることにより、整備の楽しさを体感させる。エンジンの基本的な構造を見て学ぶ。	1前	33.4				○
○		G噴射装置	電子制御式燃料噴射装置に使われている各センサー及びアクチュエーターの名称、作動、点検方法を学ぶ。外部診断機の使い方を学ぶ。	1後	47.4				○
○		ジーゼル整備	車両からシリンダヘッド等を脱着し、点検及び調整を行うことによりジーゼルエンジンの整備を学ぶ。エンジンを始動させることにより、始動系統・燃料系統について学ぶ。	1後	47.4				○

○			特殊機構 1	ロータリーエンジン単体を分解組立することにより、レシプロエンジンとの構造上の違いについて学ぶ。溶接の安全作業を学ぶ	1 前	40					○
○			二輪 2	二輪 1 で学んだ基礎を基に、より高度なエンジンの分解組立を行う。4 連キャブレターの分解調整方法について学ぶと同時に自動車のキャブレターについても学ぶ。	2 前	47.4					○
○			D 噴射装置	分配、列型インジェクション・ポンプの分解組立により、ガバナ、タイマの構造、機能について学ぶ。電子制御式インジェクション・ポンプの構造、機能についても学ぶ。	2 前	47.4					○
○			重整備	車両からエンジンなどを脱着させることにより、整備に対する安全への考え方を学ぶ。 重整備を行うことにより、今までの総復習を行うと共に、再確認を行う。	2 後	35.6					○
○			タイヤ整備	タイヤの交換作業を行う事により、タイヤの構造などを学ぶ。また、タイヤチェーン及びホイールバランサーの使い方を学ぶ。	1 前	24.2					○
○			動力伝達装置	車両よりトランスミッションを脱着し、分解組立を行うことにより、動力伝達経路を学ぶ。	1 後	47.4					○
○			ステアリング装置	ラックピオン型・ボールナット型ステアリングギアの分解組立を行うことにより かじ取り装置の構造について学ぶ。(P/S 含) 二輪のステアリング機構の分解点検を行うことにより、四輪車との相違点を学ぶ。	1 後	47.4					○
○			ブレーキ装置	重要保安部品であるブレーキ装置の分解組立を行うことにより、制動力発生の原理及び倍力装置の作動原理について学ぶ。	1 後	47.4					○
○			サスペンション	サスペンション本体の分解組立を行うことにより、基本的な構造について学ぶ。ホイール・アライメントの測定及び調整を行うことにより、走行安定性の重要性について学ぶ。	2 前	47.4					○
○			二輪 1	原動機付自転車の分解組立を行うことにより、燃料装置、動力伝達装置について学ぶ。	1 後	47.4					○
○			トラック整備	大型車両特有の機構を中心に、F・R アクスル、センターブレーキ、キングピンの分解を行い、構造、作動について学ぶ。	2 前	47.4					○
○			A/T	電子制御式 4 速 A/T (R E 4 R 0 1 A) の分解組立を行うことにより、構造、作動及び各レンジでの制御要素と動力伝達経路について学ぶ。	2 前	47.4					○
○			二輪 3	二輪大型のブレーキ装置、サスペンション、クラッチなどの分解組立を習得することにより整備力を養う。	2 前	47.4					○
○			特殊機構 2	電子制御式パワーステアリング装置及び A B S などを整備、点検を行うことにより作動などを学ぶ。	2 後	35.6					○

○			基本点検作業	リフトを使用しタイヤなどを外させ、車の構造及び名称などを覚えると同時に基本的な作業の行い方や点検方法を学ぶ。	1 前	33.4					○
○			基礎電気	サーキットテスターの製作を通して、電気に対する基礎的な考え方を学ぶ。	1 前	24.2					○
○			電気装置 1	バッテリーの構造、機能、作用、比重測定、充電方法について学ぶ。磁気作用、電子回路の基礎知識、回路作動を学ぶことにより始動装置の構造、機能を学ぶ。	1 後	47.4					○
○			電気装置 2	点火装置構成部品の基本的な構造・作動を理解し、各部の点検、良否判定を行う。 充電装置について構造、作動、機能を理解し、内部の構造を学ぶ。また、ベンチ・テストを使用し、単体での点検方法を学ぶ。	1 後	47.4					○
○			エアコンシステム	オートエアコンの作動を理解すると共に各センサーの役割、点検方法を学ぶ。自己診断機能及びファンコントロール制御について学ぶ。	2 後	30.2					○
○			車体電装 1	灯火装置について学ぶと共に、システム図を使用し故障診断の基本的な考え方を学ぶ。車両を使用した時のテスターの使い方も学ぶ。	1 後	47.4					○
○			車体電装 2	今まで行ってきた電装実習の総復習として始動・充電・点火の各装置を車両からの脱着を行い、車上での点検を行う。パワーウィンド装置の作動・点検方法を学ぶ。	2 後	35.6					○
○			ガソリン診断	オシロスコープの使い方をマスターする。 オシロスコープを使用して、サーキットテスターでは、わかりづらい故障診断を行う。 エアコンにおける冷媒サイクルの原理と機能及び作動を理解する。	2 前	47.4					○
○			故障探求	ガソリン診断のまとめとして故障診断を行い、整備技術力の向上及び疑难故障の診断力を身につける。電子制御式 A/T の故障診断の考え方を学ぶ。	2 前	47.4					○
○			二輪車検整備	モーターサイクルの基礎を基に検査機器を使用して二輪車の点検整備について学ぶ。	2 後	30.2					○
○			車検整備	国が行う継続検査の実施要領、指定自動車整備事業における車検整備の実務を保安基準、検査基準を踏まえて指導し、自動車の点検及び検査を総合的に学ぶ。	2 後	30.2					○
○			材 料	自動車を構成する材料には、多くの材料があるため材料構成、諸性質などを学ぶ。	3 前	12				○	
○			力 学	自動車力学及び荷重分布などを学ぶ。	3 前	12				○	
○			構造機能	乗用車の主流となっているモノコック構造やフレーム付き構造を持つ自動車の種類、構造、機能について学ぶ。	3 前	12				○	

○			板金Ⅰ	損傷の種類及び損傷部分に生ずる応力などを学び、車体整備を行っていくうえで必要な基礎知識を学ぶ。溶接機（ミグ・スポット・ガス溶接機など）の構造や作動原理及び使用目的などを学ぶ。	3前	50		○		
○			板金Ⅱ	復元作業を行ううえで車体精度の確保（計測の重要性）や、車体強度の確保及び車体の安全性について理解を深め、計測器や修正機器及び車体整備について学ぶ。 カット取り替え作業及び樹脂部品の補修整備について学ぶ。	3後	40		○		
○			塗装Ⅰ	塗料の構成・塗料の種類・使用目的及び危険物の取り扱いについて学ぶ。塗装工程や塗装条件及び環境の保全と作業者の安全衛生について学ぶ。	3前	30		○		
○			塗装Ⅱ	補修塗装を理解すると共に、塗膜の欠陥と対策について学ぶ。	3後	25		○		
○			損傷診断	損傷発生の力学的考察及びボデー・フレームの衝撃波及と損傷傾向、また衝撃吸収のための各様の構造的対策について学ぶ。	3後	10		○		
○			総合演習	車わく及び車体整備に関する総合演習。	3後	67		○		
○			自動車検査	車体整備に関する検査及び自動車点検基準について学ぶ。	3前	10		○		
○			(情報技術3)	コンピュータ実習	3前	20		○		
○			板金Ⅰ	板金工具・機器の取り扱い及び車体整備の基礎となる板金作業を学ぶ。溶接機（ミグ・スポット・ガス溶接機など）の取り扱い及びそれぞれの溶接技術を学ぶ。 樹脂パーツの補修工程について学ぶ。	3前	204				○
○			板金Ⅱ	計測器、修正機などの取り扱いを学ぶ。 計測作業を行い、損傷の程度や狂いの生じた部分を確認し、これから行う修正作業について学ぶ。計測結果に基づき、修正作業やカット取り替え作業について学ぶ。	3後	91.8				○
○			塗装Ⅰ	塗装用具・機器及び塗料の取り扱いについて学ぶ。下塗り・中塗り塗装工程を学ぶ。	3前	136				○
○			塗装Ⅱ	塗料の調色及び様々な補修塗装を学ぶ。	3後	74.8				○
○			損傷診断	損傷の程度や範囲を正確に把握し、効果的な作業をするための知識を学ぶ。	3後	27.2				○
○			総合実習	以上のことについて統合的に復習し、車体整備の理解を深める。	3後	153				○
○			自動車検査	車体整備に関する検査及び自動車検査を学ぶ。	3後	27.2				○
合計					96科目	3003単位時間（単位）				